

# ぱちんこ 言葉物語

16

## 設定付きパチンコ

新年最初の言葉物語は「設定付きパチンコ」です。5年ほど前に当コラムでも取り上げていた話題ですが、実際に登場し半年ほど経とうとしています。その実感と今後の課題について考えてみたいと思います。

### あまり退屈せず打てる

ライトミドルから遊パチを中心に広がりがつつある新ジャンルですが、高設定は初当り確率も高いので、必然的に「時短での引戻し率も上がる」出玉の塊が大きくなりやすい」ということとなります。つまり引き戻しや単発という事象や「ハマリ」を見ることで、若干でもその台の設定

を察することが出来るようになります。もちろん設定示唆演出も随所に盛り込まれていることも多く、やや回転効率が悪くなった昨今でもあまり退屈せずに打てる

ようになったのは、この機能によるポイントでもあったと考えられます。パチスロユーザー化へ

都心部での開店からずっと見続けてきて思うのは、差玉の出やすい機種でのグループ占拠率の高さが際立つという点です。ミルキーバーやヴァルヴレイヴ等での、いわゆるホールの旧イベント日や節目の日では、グループ占拠や若者が集中して打ち込む光景を多く目にしました。他方、通常営業（と思われる日）では、夕方まで稼働しないことも多いという状況になりました。つまりこの挙動はパチスロの挙動推移に似ているということです。



「PA地獄少女 宵伽 設定付」のボタン。一見普通の汎用枠のボタンだが、設定変更1回転目はこのボタンが一瞬動く。その動き方もポイントになる。  
©地獄少女プロジェクト/宵伽製作委員会、©Fuji Shoji

しかしマシンスペックを見る限りでは、設定6は多くの機種でエクストラであるものの、設定1〜5の確率は、大体一日の中で動きうる変化率程度です。ましてや短時間勝負ではほぼ差がないとも言える開きでもありません。これは「設定」

という言葉について市場が過剰反応している、また客付けのプロセスを見誤った運用の問題も大きいでしょう。実際、私も「PA地獄少女 宵伽 設定付」を都内でよく打ちますが、設定4以上を思わせる挙動や設定6示唆を何度も体験していますので、要所でホールも設定を使っているのだろうと推測しています。特に夕方から打つサラリーマン等なら設定付きパチンコは大きな問題にはなりにくいでしょう。もちろん、回数についている台なら迷わず座るべきです。と、ここで気付いた方はデータ派です。パチンコでの定説

来、駅前店等夕方から稼働の上がる店舗ではその真価が発揮されやすいはずですが、ホールでの評価が芳しくないというのは、その周知や運用方法にまだまだ改善の余地があるということではないのでしょうか。

### 大事に運用してほしい

これらから考えられることは、設定配分をパチスロのように運用すると、さらに通常営業でお客様の離反を促進する恐れがあるということです。例えば、6台島では必ず1台は設定⑥を入れる等の地道な努力を続けて、高設定を探り当てる楽しみをこのジャンルで定着させる等の初動の努力が重要です。実際に我々もパチスロ4号機時代ではこのようなことをしていたのですから「高稼働に近道無し」ということを忘れずに、この新ジャンルを大事に運用してもらいたいものです。（天和田敏男）

## 徐々に導入されています



「PA地獄少女 宵伽 設定付」のデンジャー柄タイトル。このリーチが外れると高設定が濃厚となる。設定機に新たなゲーム性が加わった。  
©地獄少女プロジェクト/宵伽製作委員会、©Fuji Shoji